『一生懸命』幻の新座市議会報告第160弾！

たかむらともや

2018年5月31日発行

13歳の君たちへ

3月、市内の中学校でまた13歳の命が1つ消えてしまいました。二中の陵平が命を落としたのも13歳でした。青森のひさゆきが命を落としたのも13歳でした。
今回のK君もまた13歳・・・・。
13歳の君たちへメッセージを贈りたいと思います。
”陵平は学年の先生達に反省文を書かされ、それは上手に書いたのですが、土曜日の夜、担任の先生から電話で「月曜日に学年集会で謝罪会見」をするから、と伝えられてマンションから飛び降りました。本当に馬鹿な奴です。今、生きていれば30歳です。
高校入試、大学入試、就職試験、そして恋愛、結婚・・・どれだけ親をドキドキさせてくれたことか・・・・本当に残念です。

13歳の陵平から見た先生達は「大人」で「正しいことを言う人」で「絶対的な存在」としか見られなかったんだと思います。陵平も50歳まで生きていれば、「先生」だって、間違えることはあるし、当時の「先生」達も、「若造」にしか見えない年齢だっだろうに・・・
その「若造」が言ったことをやるしかない。そう思った13歳の陵平が可哀そうでなりません。反省文を書かなくてもよかったし、学年集会で謝罪などやらなきゃいいんです。
そんなことを生徒にやらせる「若造」達が間違っていたのですから・・・嫌だったら、学校を休めばよかったんです。13歳の君たちにとって、「内申」は恐ろしいものに感じるかも知れません。

中学校で生徒に「内申」という言葉をチラつかせる教師は本当にろくでもない「若造」でしかないのです。自分の「授業」に自分の「言葉」に自信がない「若造」達が君たちに「内申」という言葉を使うのです。要するに「教師」としては完全にアウトの「若造」が君たちを簡単に支配しようとして使うのが「内申」という言葉なんです。「言うことを聞かないと内申を下げる」＝「言うとおりにやらないと試合には出さない」
ホラ、日大のアメフトの監督と同じでしょ？そんな馬鹿野郎の言うことを黙って聞いていたら、いけないんです。（裏につづく）

新座の陸上競技場は公認の競技場なので、多くの選手が各地から集まって来るのですが、観客席も照明もなく、ちょっと残念な状態です。

たかやんのプロフィール

1954年、港区青山生まれ。新宿区立西戸山小中学校卒。都立石神井テニス部から北海道大学庭球部を経て1977年、新設校の新座五中に赴任。3年4組の担任となる。

写真は最近ハマっているSNOW。これを見せると母さんがケラケラ笑うので、やめられない訳で（笑）毎日のように遊んいる。

98年、大好きだった学校を辞め、新堀に「たかやん塾」を開設。2004年、「教育新座」を目指し初当選。2006年から「駅立ち」をはじめ、ほぼ毎月6つの駅（7か所）で朝5時～9時の間で立っている。

2008年の8月から、月に一度の割合で「黒目川の川掃除」を五中4期生のメンバーを中心にスタート。石神3丁目の「たかやん塾」で小中高生と一緒に学ぶのが生きがい。嫌いなもの。人相の悪い政治家、プライドがない官僚、消費税、TPP、グローバル企業の為の規制緩和、安倍政権と自民党、牡蠣、原発、弱い者いじめ、学生を守れない指導者。

好きなもの。音楽、テニス、読書、子ども達との時間、新垣結衣、田中角栄、ホセ・ムヒカ、好きな言葉は「一生懸命」「経世済民」「明眸皓歯」

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

13歳の君たちへ2

そんな若造達の為に、自分のたった一度の人生を捨ててしまってはいけません。自分が尊敬していて、大好きな先生に「出てけ！」「やめてしまえ！」「来るな！」「試合に出さない！」と言われても、君たちには「授業を受ける権利」も「部活を楽しむ権利」も「試合に出る権利」もあるんです。君たちが、君たちの仲間の権利を奪わない限り、実力で出られないのは別にして、「どんな先生にも君たちの権利」を奪う権利はないのです。

そのことを13歳の君たちに伝えたいと思います。陵平もひさゆきもK君もそれを知っていれば、今も元気に笑顔で生きていたでしょう。思い切り、走り回っていたでしょう。

監督もコーチも先生も間違えるということを忘れないでください。60代の僕も70歳や90歳から見たら「若造」です。30代、40代の先生が間違えるのは当たり前なのです。40歳、50歳で完成する人などいません。君たちと一緒に間違えながら成長していく「先生」と出会えることを祈っています。

僕の先生

小学校1年～3年まで担任して貰った美佐子先生です。もう50年以上経っているのに僕のことをよく覚えてくれていたのに驚きました。僕はこの先生に出会えたから、先生を信じることが出来たのです。僕が6歳の時、25歳だった美佐子先生は現在83歳。「まさか、朋矢君が学校の先生になるとは･･･」と、先生もビックリしていました。悪ガキで、何の取り柄もない僕でも思い切り愛してくれた美佐子先生。3年間で先生から受け取った愛情は余りにも強く、子ども達に返そうと思っても、まだまだ返し切れていません。僕の自慢の先生です！！

教師を目指す人へのメッセージ

24歳の僕には苦い思い出があります。五中の4期生の女の子に「一期一会」という言葉をぶつけられたことがありました。2年1組の担任の僕は悲しいかな「一期一会」という言葉とそれまで出会ったことがありませんでした。14歳の子が知っている四字熟語を24歳の僕が知らなかったのですから、その女の子は僕に不信感を持ちました。「あんたそれでも教師？」「教師なら普通知ってるでしょ？」「読めないの？」彼女は僕にそう言いました。
それから僕は必死に勉強しました。彼女に認められる担任になりたかったのです。彼女は担任の僕に力不足を思い切り教えてくれたのです。彼女は僕に「勉強しろよ！」と言ってくれたのです。「私の本当の担任になりたければ、一期一会くらい知っている大人になれよ！」と言ってくれたのです。その時は分かりませんでしたが･･･彼女と僕は出会うべくして出会ったのです。

その女の子の名前は宏美･･･2年1組は3年1組にそのまま持ち上がりのクラスでした。当然、色々な事件が起きます。「金八」なんぞは嘘っぱちなくらいの事件が起きるのです。「金八は金曜日の1時間だけだけど、俺は365日、24時間だ」そんな毎日が続きました。泣いて笑って、笑って、また泣いて･･･感動の卒業式が終わって･･･彼女たちは僕から巣立って行きました。その数年後･･･宏美は大学在学中に僕のところに「教育実習」に来てくれました。楽しくて、楽しくて、本当に幸せな「教育実習」でした。その時間が本当の一期一会の意味を教えてくれました。どうか「言葉」を大切にしてください。そして、その言葉と一緒に子ども達と生きてください。それが「先生」という職業の仕事です。

「一生懸命」という言葉の意味を卒業して何年もしてから、僕に教えてくれたのも宏美と同じクラスの男の子でした。僕がポスターも作らず、選挙カーにも乗らず、駅立ちもせず、選挙に出たことに怒ったのです。「あんたは俺たちに”一生懸命”という言葉を教えてくれたんじゃなかったのか！」彼はそう言って、泣いて怒ってくれたのです。

彼の名前は英幸（ババツ）、英幸の本気の涙を見て僕も泣きました。そして、14年前、駅に立ち始めたのです。有難い教え子達に感謝、感謝です。

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m(_ _)m